



「製品内容を知らずに訪問販売」 上野佳平（兵庫県）

『訪問販売は適当な対応で買わない』

二〇年前に、わたしが公団住宅へ転宅した時には、「訪問販売人」がよく来ていた。

その時から、「絶対に買わない」と言う気持ちで対応し、話を聞くだけにして、「考えておく」と断っていた。

ところが「考えておく」と言えば、後日に必ず再訪問されるので、「そのようなものは、わたしには必要無い」と断ることにした。

最近、わたしの団地も「高齢化」して、子どもたちも出て行き、老人だけでは、あまり買わないので、訪問販売も少なくなった。

昨年も「中央市場から来ました」と、その中の店舗が高価な「ケーキ」を売りに来た。わたしは輸入小麦に殺虫剤が検出されたことで、「どこのメリケン粉を使っているのか」と聞く。「知らない」と言うから、「製品の内容も知らずに売っているのか」と断った。





わたしは、「おいしい」「安い」「便利」だけで売りに来るのには、そんな質問をして、答えられないので、断ることにしている。

『新聞は読まずテレビは見ない』

わたしは高齢になって、文字が小さく見えて読みにくくなったので、4紙も購読していた新聞を全部止めてしまった。テレビを見てみると、何もできないので、一切見ないことにしているから、新聞の「テレビ番組表」を見る必要も無くなった。

もし、読む必要があれば、隣接の「文化センター」で、全国紙5紙と地方紙の新聞が読めるから、そこへ見に行くことにしている。

しかし、以前に購読していた、いずれかの新聞拡張員が「前には読んでいただいていたが」と、月に1回は訪れるようである。

わたしは「文字が読みにくくなったから」と言いながら、「この騒然とした世の中のことは知りたくない」と言うことにしている。

ところが「文字が大きくなりました」とか、「地元のニュースを多く載せるようになりました」とか、「1カ月は購読料を無料にします」などと、宣伝に来るようになるが、とにかく何か理由を付けて全部を断っている。





『新聞の内容を知らずに拡張』

3年ぐらい前のこと。隣の家へ新聞配達をしているアルバイトの大学生が、わたしが新聞を購読していないことを知っていて、日曜日に、わたしの家を訪れて、「新聞を購読しませんか」と言う。その新聞が拡張方法としている「1カ月無料」や、「3カ月週刊誌を無料で」とも言うが、「それだけでは購読してくれないでしょうね」とも言う。

わたしは「学歴のあるあなたが、なぜ製品の内容で拡張しないのか」と聞き、「今、政府が言っている『集団的自衛権』を、おたくの新聞は、どう扱っているか」と聞いてみた。

大学生は「集団的自衛権のことは知っているが、この新聞は、どう扱っているかは知らない」と言う。「わたしの中学生時代に、軍隊へ学徒動員させられて海外に行かなかったが戦争に参加したこと」を説明した。

大学生は「新聞が、どう扱っているかを知っていることは大切なことですね。各新聞を読んで、もつと勉強します」と言って帰った。

『新聞拡張の勉強で新聞記者に』





それから1カ月ぐらいして、大学生が来て、「拡張に行くと、サービスより、新聞の内容を聞く人が居て、説明すると購読してくれました」と言い、「集団的自衛権」の、その新聞の扱い方とか、自分の考えも説明する。

そして「いろいろ勉強させてもらったから、1カ月だけ、わたしが購読料を負担しますので、新聞を読んでください」と言う。

わたしは「いろいろ訪問販売に来るが、サービスだけを宣伝して、製品の内容を知らない人が多い。それを勉強しただけでも感心」と、その大学生が配達している期間だけを大学生に負担させずに購読することにした。そして翌年の3月に大学生は「4月から就職活動をするので配達を止めます」と連絡に来た。

最近、偶然にその大学生に会うと、「新聞拡張の時に教えていただいたことが勉強になり、公務員を希望していたが、新聞記者として就職しました」と言う。わたしの拡張説明が勉強になったと思えば、うれしいことである。

【平成二七年度・特別賞】

